

令和3年度「社会福祉法人光の里」法人本部事業報告

- 1、 障害福祉サービス「エルピスあけぼの」の経営
- 2、 障害福祉サービス「フィロスあけぼの」の経営
・「フィロスあけぼの従たる事業所ワークショップきぼう」の経営
- 3、 安中市在宅重度心身障害者等デイサービス「ふれあいの家」の指定管理者制度による受託運営
- 4、 グループホーム「ゆうゆうホーム第一・第二」「カノンの家」の経営
- 5、 居宅介護事業「サポートひかり」の経営
- 6、 放課後等デイサービス「紙ひこーき」の経営
- 7、 単独型 短期入所事業「オクターヴ」の経営
- 8、 「安中市障害者生活サポートセンター」の指定管理者制度による建物管理
- 9、 特定相談・一般相談支援事業「フレンドシップ」の経営
- 10、 日中サービス支援型グループホーム「イノセント」
併設型短期入所事業「イノセント」の経営
- 11、 地域での公益的取組の推進

令和3年度 エルピスあけぼの生活介護事業報告

[施設運営の現状]

1 運営方針

施設の基本的な経営方針を定め、その目的実現のために努力している。

障害福祉サービス「エルピスあけぼの」生活介護事業は、心身に障害を負う人たちが地域の中で人として尊重され、安心して平和な生活が出来るよう努める。すべて、この目的のため、計画、実践に努めた。

- (1) 利用者の社会自立と生活の質の向上を目指し、適切な指導、援助を行う。
- (2) 地域社会と連携し、明るく豊かな生活環境を整えるよう努める。
- (3) 公正で健全な施設経営を目指す。
- (4) 地域社会と連帯して、地域で、その人らしく生活することを援助する。

2 利用者と職員の現況（令和4年3月31日現在）

- (1) 定員 32名
- (2) 利用者数 42名
- (3) 地域別利用者数

市町村名	安中市	高崎市	富岡市	渋川市	東京都	合計
人数	35名	2名	3名	1名	1名	42名

通所状況

地域別	安中	松井田	市外	合計
送迎バス	33	3	5	41
自主通所	1			1
合計	34	3	5	42

(4) 年齢別

才	～18	19～	21～	30～	40～	50～	60～	66～	合計	平均
性別		20	29	39	49	59	65		人	才
男		3	9	10	5	2		1	30	34.1
女		1	1	2	3	3	1	1	12	45.9
合計		4	10	12	8	5	1	2	42	40.0

(5) 障害の状況

障害	知的障害	身体障害	てんかん	心機能障害	ダウン症	肥満	自閉	行動障害	精神障害	重複総数	実人員
性別											
男	30	4	3	2	3	15	15	14		25	30
女	10	5	2	1	0	8	2	1	3	10	12
計	40	9	5	3	3	23	17	16	3	36	42

障害支援区分の状況

区分	区分3	区分4	区分5	区分6	平均障害支援区分
男		9	11	10	5.0
女	1	2	8	1	4.75
合計	1	11	19	11	4.87

3 職員配置と管理状況（令和4年3月31日）

(1) 職員配置

職種	施設長	サービス管理責任者	支援員		看護師	事務員	計		栄養士	調理員		嘱託医	送迎運転
			人員	常勤換算			支援員人員合計	支援常勤換算		人員	常勤換算		
常勤	常勤	1	1	7	7	2	15	11.3	0				
	非常勤			8	4.3	1 (0.1)			1.6	0	2	1	1

(2) 職員の組織・役割分担、緊急連絡網、及び職員の研修状況を整え、施設機能の充実と職員の資質の向上を図る。

(3) 職員の福利厚生に留意し、明るい職場作りを目指す。

職員が、その職務を十分に達成するために、心身共に健康な状態を維持する。

- ① 健康検診、快適な職場環境の維持に努めること
- ② 職員の休暇、休憩、レクリエーションなど心身の健康に留意すること

- ③ 施設内外の清掃、換気、採光、保温、防湿など衛生管理に注意すること
- 4 地域福祉活動
 - (1) 「社会福祉法人 光の里」の後援団体「安中あけぼの会」と共催しての地域福祉活動を行う。
 - (2) ボランティアを受け入れる。年間ボランティア実績 なし 今年度は新型コロナウイルスの影響により、受け入れは中断しました。
 - (3) 機関誌を発行し、地域の理解と協力を求める。
「安中あけぼの会」の広報誌「あけぼの会報」の発行に編集委員として参加する。
- 5 施設の管理と整備改善
常に整備、改善すべき点に留意する。
- 6 災害事故防止対策
 - (1) 利用者や諸起因の安全確保するために、施設環境の点検整備と安全指導、避難訓練を実施する。
 - (2) 防火防災組織、消火自衛組織を整備し、常に点検を行う。
 - (3) 年2回、避難訓練を行う（9月、3月）

[支 援 の 現 状]

(生 活 支 援)

- 1 保健衛生への支援
 - (1) 利用者の健康について絶えず注意を払い、家庭と連絡を取り合う。
 - (2) 定期的な健康診断の提供（年1回）。嘱託医による
- 2 食事への支援
 - (1) 食前の手洗いの励行
 - (2) 偏食をなくすよう努める。肥満対策など
 - (3) 自分の使った食器の片づけ
 - (4) 食事介助が必要な方への支援
- 3 生活習慣への支援
 - (1) 歯磨きの指導、支援
 - (2) ハンカチ、衣服、持ち物など家庭との連絡。
 - (3) 清掃、整理、整頓の励行。
 - (4) 入浴の支援
 - (5) 手洗い、うがいの徹底
- 4 余暇への支援
 - (1) お誕生日会食会
 - (2) 音楽の時間 創作活動等 適宜
 - (1) (2) 共にコロナ対策としてソーシャルディスタンスを保ち、密になるこ

とを避けながら事業所内での活動でした。

(3) 各作業室で話し合い時間 人の前で自分のことを話す、人の話を聞くことが出来るようにする。

(4) 全員参加のレクリエーション(年4から5回)

・・・室内でのレクが多く、外に出る場合も小グループでの活動に取り組んだ。

6 祝祭日を開所。

月1回程度祝祭日を開所した。

(作 業 支 援)

日中活動種目

作 業 種 目		受 注 先 と 作 業 内 容
自主生産品	コーヒー豆の自家焙煎と販売	コーヒーの焙煎・袋詰め・シール貼・真空包装器を使った密封作業。各イベント・販売会に参加。
受注作業	ホチキス針の箱詰作業	事務用針の箱詰 業務用各種針の箱詰 検査と梱包〔MAX(株) 藤岡工場〕
	内職受注作業	週2回の納品で多種類の軽作業(ミヤコジャパン)
創作物活動	磯部サービスからの除草作業	信越化学の駐車場、体育館の周辺の除草作業 (週1回、6月～10月)
	農村公園トイレ清掃	週1回金曜日、第1作業室全体で取り組んでいる。 簡易トイレの清掃。役割分担をして行った。
生活支援	各作業室にて、手作り品を作成(羊毛、多肉植物等)	第1作業室・・・コーヒー、小物製品等 第2作業室・・・羊毛製品等 第3作業室・・・季節に合った製品づくり
	歯科支援 健康管理	支援員は利用者の特性に合わせたブラッシング。 年1回あやこまごころクリニックによる健康診断。 松井田病院のレントゲン車

【 まとめ 】

本年度の重点課題への取り組み

- (1) 重度化・高齢化の支援について
- (2) 支援の質の向上のためのチームアプローチと人材育成
- (3) 制御された生活の中での日中活動

(1) について

前年度は高齢化について、介護的な視点からの内部研修や議論、実践の研修に取り組みましたが、今年度は重度化の部分である強度行動障害の支援について個別の取り組みを行いました。強度行動障害者実践研修を受けた職員が2名在籍していますので、10名の方を対象に個別の支援と記録を毎日行いました。また職員対象に実践者がロールプレイを行い、障害を持っている方の理解されない辛さや、言葉だけに頼らないコミュニケーションの難しさを共有することができました。

(2) については支援の質を高められるようチームアプローチを実践しているところです。PDCA サイクルの流れを意識した個別支援計画の作成をしましたが、やはり継続する難しさがありました。限られた時間の中で行うには取り組みやすくする改善点があり、令和4年度の課題として繋げていきたいと思えます。

(3) について

今年度もコロナ過での日中活動となりました。

社会体験やレクリエーションについては、外食の代わりにテイクアウト、事業所内のお楽しみ会を企画し行いました。また11月には安中スマイルパークを利用して、オカリナのミニコンサート、午後はキッチンカー、射的、おでんやフランクを提供しました。その中でイベントウォークラリーを行い、チェックポイントごとにクイズや指令があり、楽しみながら普段運動が少ない利用者も体を動かすことができました。普段とは違った表情が見れて良かったです。参加方法もコロナ対策に配慮し、作業室グループごとに時間をずらして密にならないようしました。

今までの活動では、全員で出かけて楽しい時間を共有することが喜びでした。しかしコロナ過において個別やグループの活動を行ってみると、それぞれの嗜好があり、協力して合わせてくれたんだなあと感じた一年でした。今後も社会活動支援を意識して計画を進めたいと思えます。

令和3年度 エルピスあけぼの職員研修報告

(職員研修体制)

知的障害者福祉協会、社会就労協議会等関連機関による研修会・説明会には、可能な限り積極的に参加し、職員の資質向上に努める。

職員のスキルアップのための研修計画を立て、研修を行えるようにする。

外部の講習会や研修を受講し、資格取得等の支援を行う。

自閉症や強度行動障害等の専門的知識と支援技術の獲得のための研修を行う

外部研修

受講年月日	主催者	開催地	研修内容	参加職種	予定参加人員
5月19日 ～21日	国立障害者リハビリテーション学院	Z o o mでの開催	自閉症スペクトラム症・支援者入門研修 概論から本人、家族支援者の視点からの実情と課題 健康管理、アセスメントについて	生活支援員	1名
6月22日	県知的障害者福祉協会	社会福祉総合センター	重度・高齢化に関する研修 古川慎司氏を講師に迎え、 講義とグループワーク	施設長 生活支援員	1名 2名
6月22日	県知的障害者福祉協会	Z o o m	作業支援部会「作業・生産活動における課題」 担当施設くわのみ 10:00～12:00	生活支援員	1名
6月22日 6月29日	強度行動障害実践研修	高崎カレッジ	強度行動障害についての知識向上と実務者として 取り組むべき支援方法と事例検討	生活支援員	1名
9月29日	県知的障害者福祉協会	Z o o m	日中活動支援部会 「こだわりの強い人の支援」 発表・・・エルピスあけぼの 小林政英	施設長 主任生活支援員	1名 1名
10月6～7日	日本知的障害者福祉協会	Z o o m	全国知的障害者施設長等会議	総合施設長 施設長	1名 7名

10月28日	日本知的障害者福祉協会	Z o o m オンデマンド	日中活動支援部会全国大会 「社会参加を考える」*オンデマンドにより数回に分けて研修を受けてもらった。	施設長 生活支援員	1名 10名
10月29日	県知的障害者福祉協会	Z o o m	作業支援部会「作業・生産活動における課題」	生活支援員	1名
1月6～7日	強度行動障害基礎研修	資格の学校 Z o o m	強度行動障害の基礎知識と支援の在り方	生活支援員	1名
2月2日	県知的障害者福祉協会	Z o o m	発達障害に関する研修 「発達障害の特性の理解と支援」 リンゲージ 中澤由梨氏	生活支援員	2名
3月1日	日本知的障害者福祉協会	Z o o m	部会協議会 今後の福祉施策に関する協議、方向性。 日中活動支援部会の社会生活支援とは	施設長	1名
1月27日 3月26日	強度行動障害実践研修	Z o o m	強度行動障害についての知識向上と実務者として 取り組むべき支援方法と事例検討	生活支援員	1名

このほかに、群馬県知的障害者福祉協会主催の施設長会年間4～5回 グループホーム研修会2回
相談支援に関する研修年間3～4回 サービス管理責任者研修1～2名予定 相談支援専門員研修1名予定
1・事務部会 年2回 2・群馬県の事業者説明会（於 県庁） 随時

内部研修（安中市自立支援協議会事業所部会を含む）

月 日		担 当	内 容	対 象	人 数
4月2日	エルピスあけぼの	施設長	コロナウィルス感染予防・BCP（事業継続計画）について読み合わせ確認。事業所では対応する場合も含め協議。	常勤職員のみ	8名
5月20日		各担当事業所	新人職員に対して行う研修（知的障害の理解と支援）	1年未満～2年の職員 管理者、主任が行う	1名～2名
8月4日 12日		施設長	虐待防止関連研修 不適切な支援について「入所施設の統計と実習生から見た不適切な言動のデータを基に話をした。	エルピスあけぼの支援員全員。	15名
10月1日 8日		施設長	個別支援計画について 対人援助についての基本 資料をもとに説明し、共通理解をした。	エルピスあけぼの支援員全員	15名
3月14日		施設長	個別支援計画重点会議について PDCAサイクルを意識した個別支援方法	エルピスあけぼの常勤職員	8名

令和3年度 フィロスあけぼの 就労継続支援B型事業報告

[施設運営の現状]

1 運営方針

障害福祉サービス事業所「フィロスあけぼの」は、心身に障害を負う人たちが地域の中で人として尊重され、安心して平和な生活が出来るよう努める。すべて、この目的のため、計画、実践に努めた。

- (1) 利用者の社会自立と生活の質の向上を目指し、適切な指導、援助を行う。
- (2) 地域社会と連携し、明るく豊かな生活環境を整えるよう努める。
- (3) 公正で健全な施設経営を目指す。
- (4) 地域社会と連帯して、地域で、その人らしく生活することを援助する。

2 「フィロスあけぼの」利用者の現況（令和4年3月31日現在）

- (1) 定員 28名
- (2) 利用者数 32名
- (3) 地域別利用者数

市町村名	安中市	高崎市	富岡市	下仁田町	合計
人数	27	1	3	1	32

通所状況

地域別	安中市内	市外	合計
送迎車	29	0	29
自主通所	3	0	3
合計	32	0	32

(4) 年齢別

性別	～18	19～20	21～30	31～40	41～50	51～64	65～	合計人	平均年齢
男	0	3	8	4	4	1	0	20	31.7
女	0	2	3	0	4	3	0	12	38.3
合計	2	5	11	4	8	4	0	32	34.2

(5) 障害の状況

障害	知的障害のみ	身体障害のみ	てんかんと知的	ダウン症と知的	自閉と知的	緘黙	言語	自閉	行動障害	精神障害のみ	精神と身体	実人員
男	8		4	4	3					0	1	20
女	8		2	1	0					1	0	12
計	16		6	5	3					1	1	32

3 職員配置と管理状況（令和4年3月31日現在）

職員の配置状況

職 種	施設 サー ビス 管理 責任 者	支 援 員		事 務 員	栄 養 士	調 理 員		計		嘱 託 医	送 迎 運 転
		人 員	常 勤 換 算			人 員	常 勤 換 算	人 員	常 勤 換 算		
常 勤	常 勤	1 (兼務)	6	6	1 (兼務)			8	9.7		
	非常勤		5	2.2			1	0.5	5	1	1

(1) 職員の組織・役割分担、緊急連絡網、及び職員の研修状況を整え、施設機能の充実と職員の資質の向上を図る。

(2) 職員の福利厚生に留意し、明るい職場作りを目指す。

職員が、その職務を十分に達成するために、心身共に健康な状態を維持する。

- ① 健康診断 快適な職場環境の維持に努めること
- ② 職員の休暇、休憩、レクリエーションなど心身の健康に留意すること
- ③ 施設内外の清掃、換気、採光、保温、防湿など衛生管理に注意すること

4 食事

(1) よい食事マナーを身につける

5 自主通所と送迎

(1) 社会自立を目指し、自主通所を奨励する。

(2) 送迎支援により通所の便宜を図る。

6 地域福祉活動

(1) 「社会福祉法人光の里」の後援団体「安中あけぼの会」と共催し地域福祉活動をおこなう。※今年度は新型コロナウイルスの影響により主な活動は中止となりました。

(2) ボランティアを受け入れる。

障害者福祉への理解と協力を求め、計画的にボランティアを受け入れる。

※今年度は新型コロナウイルスの影響により受け入れは中断しました

(3) 機関誌を発行し、地域の理解と協力を求める。

「安中あけぼの会」の広報誌「あけぼの会報」の発行に編集委員として参加する。

7 施設の管理と整備改善

常に整備、改善すべき点に留意する。

8 災害事故防止対策

(1) 利用者や諸起因の安全確保するために、施設環境の点検整備と安全指導、避難訓練を実施する。

(2) 防火防災組織、消火自衛組織を整備し、常に点検を行う。

(3) 年2回、避難訓練を行う。(9月、3月)

[支 援 の 現 状]

「フィロスあけぼの」は一般企業への就職や社会適応の難しい15才以上の知的障害者に対し、通所の方法により個々の能力と特性に応じ、次のような支援を行った。

1 支援状況

- (1) 明るく素直で、誰とでも仲良く出来るよう努める。
- (2) 仕事をまじめに辛抱強く行い、やる気と続ける力を養う。
- (3) 家庭と連携して共通した理解を持ち、よい生活習慣を身につけるよう支援する。
- (4) 作業内容を充実させ、社会自立に向かって努力する。
- (5) 一人一人能力にあわせて支援するよう心がける。

2 本年度の重点目標

- (1) 常に健康と安全の確保に努める。
- (2) 利用者の自立を目指し、よい生活習慣を身につけるよう努める。
- (3) 研修会に積極的に参加し、職員の資質の向上に努める。
- (4) 職員間の連絡を密にする。

3 日 課

時 間	内 容
8 : 1 5	送迎車出発
8 : 3 0	職員出勤 ミーティング
9 : 0 0 ~ 9 : 4 5	自主通所者の出勤、作業、送迎車到着
9 : 5 0 ~ 1 0 : 0 0	朝礼、ラジオ体操
1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0	作業、適宜休憩
1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0	昼食 (食事支援)、休憩
1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 1 0	作業、適宜休憩
1 5 : 1 0 ~ 1 5 : 3 0	作業、掃除
1 5 : 3 0 ~	終礼、帰宅準備
1 5 : 3 0 ~ 1 7 : 1 5	職員の整理作業 ケース記録 翌日の準備 送迎車到着 職員会議 退勤

4 行事

利用者の社会参加、生活の質の向上を目指し、レクリエーションを積極的に行うように努めた。

[生 活 支 援]

1 安全への支援

- (1) 避難訓練を年2回(9月、3月)に行う。
- (2) 作業室の器具、備品、材料などを整理整頓し安全に心がけ、随時点検する。
- (3) 交通安全について指導し、交通事故防止に努める。

2 保健衛生への支援

- (1) 利用者の健康について絶えず注意を払い、家庭と連絡を取り合う。
- (2) 定期的な健康診断を受ける(年1回)。

3 食事への支援

- (1) 食前の手洗いの励行
 - (2) 偏食をなくすよう努める。肥満対策など。
 - (3) 自分の使った食器の片づけ
 - (4) テーブルや床を汚したら自分できれいにする。
- 4 生活習慣への支援
- (1) 歯磨きの指導、ハンカチ、衣服、持ち物など家庭との連絡。
 - (2) 清掃、整理、整頓の励行。
- 5 余暇への支援
- (1) 話し合い時間 人の前で自分のことを話す、人の話を聞くことが出来るようにする。
- 6 祝祭日を開所にする。
今年度も祝祭日に月 1 回程度行った。

[作 業 支 援]

作業種目

作 業 種 目		受 注 先 と 作 業 内 容
自 主 製 品	食品加工	焼き菓子製造（マドレーヌ、クッキー等） ・ぐんまセルフ主催の各地販売会へ出店 ・PIPPO、ふるさと納税サイト等への出店 ・スリーパンズ（株）企画の都内近郊百貨店へ出店 ・学校、企業、役所、個人からの注文対応
受 注 契 約 作 業	ホチキス針の箱詰	事務用針の箱詰 業務用各種針の箱詰 検査と梱包〔MAX(株) 藤岡工場〕
	パッキンはめ	自動車部品のパッキンはめ作業 〔(株) 大手プラスチック〕
	オクターヴ清掃	毎日午前中、オクターヴの居室・トイレ・リビング 浴室等の清掃作業
	社報	社報を包装・発送（毎月） 〔信越化学工業(株)群馬事業所〕
	公官需 公園清掃・花壇管理 〔施設外就労〕	すみれが丘公園及び八本木公園のトイレ清掃作 業・設置ゴミ箱の回収（週 2 回）・米山公園の花壇 整備（年 2 回の植栽）〔安中市役所都市整備課〕
	安中保健福祉事務所の 除草作業〔施設外就労〕	年間 29 回（月に 2～3 回）1.5 時間 利用者 8 名・職員 2 名で作業をおこなう
	農作業 〔施設外就労〕	ネギ、椎茸、梅、ナス、蒟蒻圃場での作業 （除草、出荷準備、枝拾い、カラカキ等） 契約農家 5 件（内：共同受注窓口経由 4 件）
第一ドライでリネン業 務 〔施設外支援〕	月・火・水・金 9：30～16：30 利用者 3 名が（株）第一ドライにて作業をおこなう ※コロナの影響により 2020 年 3 月から中断	

- (1) 食品加工
コロナの影響により販売会の中止は続いているが、新たに始めたインターネット販売、ふるさと納税返礼品、百貨店への出店等の影響もあり売上は回復した。繁忙期への対応も成功し、職員・利用者の負担軽減も同時におこなえた。
- (2) ホチキス針の箱詰
一番多くの利用者が関わっている作業であるが、作業量が減少傾向にあり、代替作業を受注することも難しい様子。
- (3) パッキンはめ
ホチキス作業の次に安定していた作業であったが、今年度は作業量の減少が著しく、来年度は終了すると思われる。
- (4) オクターヴ清掃
毎日の作業で、4人グループを作って取り組んでいる。居室・トイレ・風呂場・洗濯など清掃の基本が学べる作業となっている。
- (5) 社報
毎月約360部を作製している。完璧な正確性を要求される。
- (6) 公園清掃・花壇管理
今年度も週2回、清掃用の作業服に着替え、それぞれ道具を持って出かける。トイレ清掃後にゴミ回収作業を行う。トイレは細かいところまでブラシで清掃し、ゴミ回収は設置してあるゴミ箱のゴミや駐車場に落ちているゴミを燃えるごみと缶・ビン類等に分け回収している。年2回、公園内にある花壇に季節の花を植栽。新たに耕運機を購入したことで作業効率が良くなった。参加できる利用者も増えた。
- (7) 安中保健福祉事務所の除草清掃作業
年間29回。手作業で駐車場内を行うので、外部の方や車などにも気を使いながら作業を行った。夏場は熱中症対策として帽子、冷やしたタオル、小まめな休憩と水分・塩分補給等に留意した。
- (8) 農作業
新たに4名の農家と契約し、椎茸、ネギ、梅、茄子の農作業もおこなった。体的に大変な面はある一方で、社会参加を直接体感でき、賃金も時給600円もらえることで利用者の参加意欲は比較的高い。
- (9) 第一ドライでの施設外支援
2020年3月より新型コロナウイルスの影響により中断している。取り組んでいた3名は再開を希望しているが、コロナの影響が続いていること、工場の作業ライン等が変更されていることもあり再開は厳しい様子。

【 ま と め 】

令和3年度フィロスあけぼの平均工賃は **15,110円** (前年度比+1,578円)、工賃支払総額は **5,726,600円** (前年度比+976,800円) となりました。コロナによる影響を受けながらも、お菓子販売や農福連携の推進により昨年度大きく下がった工賃を一定程度戻すことができました。

重点課題への取組

1. 焼き菓子の新たな販路の開拓 ～仲間の工賃と仕事を守り、攻める～

年間売上は 253 万円（前年度比+90 万円）となり、過去最高となりました。販路開拓のための試み（インターネット販売、百貨店販売、ふるさと納税返礼品等）はつまづきながらも乗り越え、一定の成果を上げることができました。全国から注文をいただける喜びや驚きはインターネット販売ならではの感動だったように思います。B 型事業所として仲間の工賃向上を目指すことは重要な役割の 1 つですが、それ以上に仲間の大事な作業を中断しない一年間にできたことが何よりも大きな安心と喜び、そして自信へと繋がりました。今回の試みは成功に繋がりましたが、実際の売上の多くは光の里関係者や市内からの注文です。今後も地域への感謝は忘れず、更なる成長へ向け駆け抜けていきます。

2. 引きこもりの方へ在宅支援の試み ～社会的孤立を防ぎ、繋げる～

在宅支援に繋げることはできず、本人及び保護者の意向により 11 月に退所となりました。毎週、本人と電話を続けていく中で、在宅支援について様々な方法を提案しましたが、どれも受け入れてもらうことはできませんでした。そしてコロナ終息が見えない状況のため、退所したいと申し出がありました。非常に残念でしたが、本人及びご家族の意思は定まっており、それを変えることは難しいことでした。「コロナが終息したらまたフィロスに通いたい。」と保護者を通じ、本人からのメッセージが聞けたことは幸いです。今後は相談支援事業所ヌアリーベと連携を取り、定期的に状況確認は続けていくつもりです。そしてコロナ終息が見えた時には真っ先に電話をかけ、本人と話しをしたいと思っています。

3. ICT 活用に向けた環境整備 ～現場の業務効率化～

ICT 導入モデル事業（補助金）を活用し、タブレット端末 8 台、スマホ端末 1 台、Wifi 拡張工事、食品表示ソフト 1 台を導入しました。支援員が 1 人 1 台のタブレット端末を所持することにより、記録業務や会議での情報共有がスムーズになりました。その他、テレビ電話を活用した研修参加、ペーパーレス効果、3 密回避、仲間へのタブレットを利用した支援も展開できました。良い面が多くありましたが、一方でタブレット端末に慣れることで支援員がパソコンに触れる機会が減り、パソコン技術が成長しないという側面は感じられました。

4. 主体的レクレーションによるリフレッシュ

今年度のレクレーションは仲間の【選ぶ】と【参加】に力を入れました。【選ぶ】では食べ物、飲み物、デザートを全て選んでもらい、選択肢も 2 つから最大 5 つに増やしました。迷い、悩み、考え抜いて決めたものは格別の様で、残したり不満を訴えることが減りました。想像と違ったと後悔することもあります。自分で決めた場合の方が“仕方ない”と納得するのが早い傾向にあります。【参加】は一人ひとりが主役になる瞬間づくりを意識し、見る側でなく見せる側、動いて体験や表現できるレクレーションを取り入れました。仲間が仲間を楽しませている瞬間が一番笑顔が多かった様に思います。

[施 設 運 営 の 現 状]

1 運営方針

障害福祉サービス事業所「フィロスあけぼの生活介護事業所ワークショップきぼう」(以下ワークショップきぼう)は、心身に障害を負う人たちが地域の中で人として尊重され、安心して平和な生活が出来るよう努める。すべて、この目的のため、計画、実践に努めた。

- (1) 利用者の社会自立と生活の質の向上を目指し、適切な指導、援助を行う。
- (2) 地域社会と連携し、明るく豊かな生活環境を整えるよう努める。
- (3) 公正で健全な施設経営を目指す。
- (4) 地域社会と連帯して、地域で、その人らしく生活することを援助する。

2 「ワークショップきぼう」利用者の現況(令和4年3月31日現在)

- (1) 定員 12名
- (2) 利用者数 16名
- (3) 地域別利用者数

市町村名	安中市	高崎市	富岡市	前橋市	合 計
人 数	16				16

通所状況

地域別	安 中	松 井 田	市 外	合 計
送迎車	12			12
自主通所	3	1		4
合計	15	1		16

(4) 年齢別

才	～18	19～	21～	31～	41～	51～	65～	合 計	平 均
性別		20	30	40	50	64		人	才
男			3	4				7	31.9
女			3	3		2	1	9	39.7
合 計			6	7		2	1	16	35.4

(5) 障害の状況

障 害	知的障害のみ	身体障害のみ	てんかんと知的	心機能障害・身体	ダウン症と知的	緘黙	言語障害	自閉と知的	精神と知的	精神と身体	知的と身体	実人数
男	2	1	1		1			1		1		7
女	4	1		1	2				1			9
計	6	2	1	1	3			1	1	1		16

(6) 障害支援区分

区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	平均
1	9	3	2	1	3.6

3 職員配置と管理状況（令和 4 年 3 月 31 日）

職員の配置状況

職 種	施設 サ ー ビ ス 管 理 責 任 者	支 援 員		事 務 員	看 護 士	調 理 員		計		嘱 託 医	送 迎 運 転
		人 員	常 勤 換 算			人 員	常 勤 換 算	人 員	常 勤 換 算		
常 勤	常 勤	1 (兼務)	2	2	1 (兼務)			4	4.5		
	非常勤		4	1.9		1 (兼務)		5		1	

(1) 職員の組織・役割分担、緊急連絡網、及び職員の研修状況を整え、施設機能の充実と職員の資質の向上を図る。

(2) 職員の福利厚生に留意し、明るい職場作りを目指す。

職員が、その職務を十分に達成するために、心身共に健康な状態を維持する。

- ① 健康診断 快適な職場環境の維持に努めること
- ② 職員の休暇、休憩、レクリエーションなど心身の健康に留意すること
- ③ 施設内外の清掃、換気、採光、保温、防湿など衛生管理に注意すること

4 自主通所と送迎

(1) 社会自立を目指し、自主通所を奨励する。

(2) 送迎支援により通所の便宜を図る。

5 地域福祉活動

(1) 「社会福祉法人 光の里」の後援団体「安中あけぼの会」と共催し地域福祉活動をおこなう。※今年度は新型コロナウイルスの影響により主な活動は中止

(2) ボランティアを受け入れる。

障害者福祉への理解と協力を求め、計画的にボランティアを受け入れる。

※今年度は新型コロナウイルスの影響により受け入れは中断

(3) 機関誌を発行し、地域の理解と協力を求める。

「安中あけぼの会」の広報誌「あけぼの会報」の発行に編集委員として参加する。

6 施設の管理と整備改善

常に整備、改善すべき点に留意する。

7 災害事故防止対策

(1) 利用者や諸起因の安全確保するために、施設環境の点検整備と安全指導、避難訓練を実施する。

(2) 防火防災組織、消火自衛組織を整備し、常に点検を行う。

(3) 年 2 回、避難訓練を行う。(9 月、3 月)

[支 援 の 現 状]

「ワークショップきぼう」は障害者が自立した日常生活または社会生活を営むことができるよう支援するため、通所により、介護サービスや訓練、創作活動、生産活動等を行い、心のリフレッシュを図ると共に生活を向上できるための支援をおこないます。

1 支援状況

- (1) 明るく素直で、誰とでも仲良く出来るよう努める
- (2) 仕事をまじめに辛抱強く行い、やる気と続ける力を養う。
- (3) 家庭と連携して共通した理解を持ち、よい生活習慣を身につけるよう支援する。
- (4) 作業内容を充実させ、社会自立に向かって努力する。
- (5) 一人一人能力にあわせて支援するよう心がける。

2 本年度の重点目標

- (1) 常に健康と安全の確保に努める。
- (2) 利用者の自立を目指し、よい生活習慣を身につけるよう努める。
- (3) 研修会に積極的に参加し、職員の資質の向上に努める。
- (4) 職員間の連絡を密にする。

3 日 課

時 間	内 容
8 : 3 0	職員出勤 ミーティング
8 : 4 0 ~	送迎車出発
9 : 0 0 ~ 9 : 4 5	自主通所者の出勤、作業準備、送迎車到着
9 : 5 0 ~ 1 0 : 0 0	朝礼、ラジオ体操
1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0	作業、適宜休憩
1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0	昼食 (食事支援)、休憩
1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 1 0	作業、適宜休憩
1 5 : 1 0 ~ 1 5 : 3 0	作業 掃除
1 5 : 3 0 ~	終礼 帰宅準備、送迎車出発
1 5 : 3 0 ~ 1 7 : 1 5	職員の整理作業 ケース記録 翌日の準備 送迎車到着 職員会議 職員退勤

4 行事

利用者の社会参加、生活の質の向上を目指し、レクレーションや社会体験学習などを積極的に行うように努めた。

[生 活 支 援]

1 安全への支援

- (1) 避難訓練を年2回(9月, 3月)に行う。
- (2) 作業室の器具、備品、材料などを整理整頓し安全に心がけ、随時点検する。
- (3) 交通安全について指導し、交通事故防止に努める。

2 保健衛生への支援

- (1) 利用者の健康について絶えず注意を払い、家庭と連絡を取り合う。
- (2) 定期的な健康診断を受ける。(年1回)

- 3 食事への支援
 - (1) 食前の手洗いの励行
 - (2) 偏食をなくすよう努める。肥満対策など。
 - (3) 自分の使った食器の片づけ
 - (4) テーブルや床を汚したら自分できれいにする。
- 4 生活習慣への支援
 - (1) 歯磨きの指導、ハンカチ、衣服、持ち物など家庭との連絡。
 - (2) 清掃、整理、整頓の励行。
 - (3) 手洗い、うがいの支援
- 5 余暇への支援
 - (1) 話し合い時間 人前で自分のことを話す、話を聞くことができるようにする。
 - (2) 創作活動 (習字、粘土、手芸等)
 - (3) 全員参加のレクリエーション (コロナ禍のため小グループに分けて実施)
- 6 祝祭日を開所にする。
今年度も祝祭日に月 1 回程度行った。

[作 業 支 援]

作業種目

作 業 種 目		受 注 先 と 作 業 内 容
自 主 製 品	食品加工	焼き菓子製造 (クッキー、パウンドケーキ等) ・ぐんまセルフ主催の各地販売会へ出店 ・学校、企業、役所、個人からの注文対応
受 注 契 約	ホチキス針の箱詰	事務用針の箱詰 業務用各種針の箱詰 検査と梱包 [MAX(株) 藤岡工場]
	薬袋の作成	診療所の薬袋の印刷・作成 [あやこまごころ診療所]
	三角くじ作成	紙を折り、ホチキスで止め、三角くじを作成 [株式会社クジオール]
	タオルたたみ	タオルをたたみ、規程枚数ごとに結束して納品 [(株) 第一ドライ本社工場]
作 業	公官需 公園清掃・花壇管理 [施設外就労]	農村公園トイレ清掃 (週 1 回) [安中市農林課] 安中市地域福祉センター花壇整備 (年 2 回の植栽) [安中市福祉課]
	農作業	ネギ、椎茸、梅、ナス、蒟蒻圃場での作業 (除草、出荷準備、枝拾い、カラカキ等) B 型事業の作業に適宜参加。

(1) 食品加工

コロナの影響により販売会の中止は続いており、売上は昨年度同様コロナ前の約 70%程度。利用者が作業へ関わられるような環境設定と新商品作成に注力した。

- (2) ホチキス針の箱詰
作業量が減少傾向にあり、代替作業を受注することも難しい状況。
- (3) 葉袋の作成
月に 200 枚程度の葉袋を印刷、作成。ノリを付ける場所、折り目をつける等の
細かな作業が要求される。正確性が重要。
- (4) 三角くじ作成
多くの利用者が集中して取り組みやすい作業。一方、単価が低いため工賃へ反
映させることが難しい清掃作業・花壇整備
- (5) タオルたたみ
時期により作業量の変動が大きい。たたむ作業は理解がしやすく、多くの方が
関われる作業。向きを揃える、結束するといった行程が難しい。
- (6) 公園清掃・花壇管理
清掃作業を細分化し、一人ひとりの特性等に合わせた役割を担っている。
花壇はフィロスあけぼの B 型事業所と連動して年 2 回おこなう。
- (7) 農作業
様々な農作業を経験できている。他の作業に比べ体力を要するが、地域の方と
の関わりや自然とのふれあいがあり、参加者は充実感を得られている様子。

[ま と め]

重点課題への取組

1. 自治会再始動

コロナ禍で取り組めるレクリエーションについて仲間たちに話し合ってもらった計画でしたが、目まぐるしく変わる基準や警戒度を想定した上で話し合うことは難しく、結果的に自治会活動はおこなえませんでした。代わりにレクリエーション後に仲間たちの意見を聴き取り、次回に生かすこととしました。

2. 構造化と分業制 ～好きや得意を活かせる環境づくり～

これまで食品加工作業に携わっていない仲間が少しずつでも参加できる様に、作業の細分化と環境設定をおこないました。ある方は道具の準備を担ってもらうため、棚に写真を貼ったことで自身の判断で準備ができるようになりました。ある方は几帳面で丁寧な作業が得意なため、販売会の際には値札シールを商品に貼ってもらいました。現状では作業自体への参加が難しいですが、今後も好きや得意を活かせるポイントを見つけ、支援していきます。

3. 軽運動とストレスケア

今年度はレクリエーションとして多くの軽運動を取り入れました。(散歩、ボウリング、ポッチャ、カーレット、射的、的あて、スプーンリレー、おもちゃ釣り、eスポーツ)運動が苦手な方も種目や頻度を増やしたことで、興味のある運動を見つけられる仲間が多く、楽しみながら参加できていました。来年度は運動機会を更に増やしていきます。

令和3年度 共同生活援助（日中サービス支援型）「グループホーム イノセント」
併設型短期入所「グループホーム イノセント併設型短期入所」
事業報告

（令和3年4月1日～令和4年3月31日）

基本的な経営理念に基づき、基本的支援方針を定め、その目的実現のために努力している。

（一）運営方針

- 1 指定共同生活援助事業（日中サービス支援型）「グループホーム イノセント」並びに併設型短期入所事業「グループホーム イノセント併設型短期入所」は心身に障害を負う人たちが、地域社会の中で、人として尊重され、安心して平和に生活出来るよう努める。全て、この目的のために計画し、実践する。
- 2 利用者の社会自立と生活の質の向上を目指し、適切な支援を行うよう努める。
- 3 公正で健全な経営を目指す。
- 4 地域社会の人たちと連帯して、地域の中でその人らしく生活することを援助する。

（二）行事計画について

主な年間行事計画 社会体験（買い物体験・外食体験） 野外レクリエーション
光の里まつり クリスマス会 新年会 季節に応じたイベント等

【報告】

コロナ禍で行事計画は縮小され、コロナ対策が可能な行事のみをおこなった。
外食体験は一度も行わず、野外レクリエーションもおこなう事はできなかった。

（三）「グループホーム イノセント」利用者の現況（令和4年3月31日 現在）

- 1 定員 10名
- 2 地域別利用者数

市町村名	安中市	高崎市	富岡市	前橋市	合計
人数	10人	0人	0人	0人	10人

3 年齢別

性別	18～20	21～25	26～30	31～40	41～50	51～60	61～	合計	平均年齢
男	0	1	1	1	5	2	0	10	42.1
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	1	1	5	2	0	10	42.1

4 障害支援区分の状況

区分性別	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0	0	0	5	1	4	10
女	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	5	1	4	10

（四）「グループホーム イノセント併設型短期入所」利用者の現況（令和4年3月31日 現在）

- 1 定員 3名
- 2 地域別登録利用者数

市町村名	安中市	高崎市	富岡市	前橋市	合計
人数	6人	0人	0人	0人	6人

3 年齢別

性別	18 ～20	21 ～25	26 ～30	31 ～40	41 ～50	51 ～60	61～	合計	平均 年齢
男	0	1	2	3	0	0	0	6	29.6
女	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	1	2	3	0	0	0	6	29.6

4 障害支援区分の状況

性別	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
男	0	0	0	3	2	1	6
女	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	3	2	1	6

(五) 「グループホーム イノセント」並びに「グループホーム イノセント併設型短期入所」 職員配置と管理状況 (令和4年3月31日 現在)

職 務	人 数	常勤換算
管理者 (サービス管理責任者・生活支援員を兼務する常勤)	1名	1
世話人 (専従する常勤1名・生活支援員と兼務する常勤4名)	6名	3.6
生活支援員 (世話人と兼務する常勤4名、管理者と兼務する常勤1名)	6名	3.3
夜間支援従事者 (非常勤5名) * 常勤換算は算出せず	5名	
事務員 (世話人と兼務する非常勤) * 常勤換算は世話人に含む	1名	
生活支援員 (サポートひかり兼務) * 常勤換算は世話人に含む	1名	

- ① 職員の組織 (責任体制・役割分担・緊急連絡網) を整え、職員の研修や資質向上に努める
- ② 職員の福利厚生に留意し、明るい職場作りに努める
- ③ 職員がその職務を十分に達成するために、心身ともに健康な状態を維持する事に努める
- ④ 定期健康診断、快適な職場環境の維持に努める
- ⑤ 職員の休暇、休憩、レクリエーションなど心身の健康に留意する事に努める
- ⑥ 施設内外の清掃、換気、採光、保温、防湿など衛生管理に注意する事に努める

(六) 支援内容

「グループホーム イノセント」並びに「グループホーム イノセント併設型短期入所」は15歳以上の主に知的障害者に対し、共同生活援助サービス並びに短期入所サービスにより個々の能力と特性に応じ、次の様な支援を行う。

- 1 朝食・昼食・夕食の提供
- 2 金銭管理 (所持金管理委託契約に基づく所持金管理、小遣い等の管理)
- 3 健康管理 (服薬管理、健康チェック、助言、インフルエンザ等予防対策)
- 4 応談と助言 (隣保班対応等)
- 5 通院、買い物等
- 6 体調不良時等の日中支援
- 7 夜間支援
- 8 入浴・排泄等の支援
- 9 関連事業所への連絡・調整 (日中活動事業所・居宅介護事業所・相談支援事業所等)
- 10 余暇支援

(七) 食事について

管理栄養士によるバランスの取れた食事を提供した。
コロナ感染予防として、各自部屋で食べられる利用者は部屋食で提供した。

(八) 地域福祉活動について

- 1 「社会福祉法人光の里」の後援団体「安中あけぼの会」と共催して地域福祉活動を行う。
- 2 ボランティアや見学者等の受け入れ
コロナ禍で可能な範囲で障害者福祉の理解と協力を求める為に見学者の人数制限を行い、受け入れた。
- 3 機関誌を発行し、地域の理解と協力を求める
「安中あけぼの会」の広報誌「あけぼの会報」の発行に編集委員として参加した。

(九) 施設の管理および整備改善について

常に整備、改善すべき点に留意した。建物のメンテナンスに配慮した。

(十) 災害事故防止対策について

- 1 利用者や職員の安全を確保するために、施設環境の点検整備と安全指導、通報訓練避難訓練、消火訓練などを実施した。
- 2 防火防災組織を整備し、常に点検に努めた。
- 3 消火自衛組織を作り、消火活動、通報連絡網、避難誘導、救護手当などを定期的に訓練に努めた。

(十一) 安中市地域生活支援拠点事業について

令和3年4月1日より「グループホーム イノセント併設型短期入所」が安中市地域生活支援拠点事業の一部である緊急時受入事業として指定を受ける事となった。安中市自立支援協議会や行政、基幹相談支援センター、他の関連機関との連携と協力に努めた。

安中市地域生活支援拠点事業（緊急時受入事業）として

- 1 緊急時の受付対応業務
- 2 緊急時の必要な支援又は保護（必要最低限の期間、短期入所サービスを提供）
- 3 緊急時の迅速な対応のため地域の社会資源との連携強化と体制整備を図る

(十二) 安中市地域生活支援拠点事業での実績について

事業実施内容

1 相談支援

	電話	来所	その他	備考
相談	2人	0人	0人	

2 緊急時受入対応

対応年月日	知的障害	精神障害	身体障害	その他	期間
令和3年 9月21日	1人				10月6日 まで
令和3年 10月30日	1人				1日のみ

共同生活援助（日中サービス支援型）「グループホーム イノセント」 併設型短期入所「グループホーム イノセント併設型短期入所」 重点課題について報告

「グループホーム イノセント」

重点課題 地域生活支援拠点事業が始まる中で、利用者の安定した生活を確立させる

今年度、地域生活支援拠点の一部として緊急短期入所の利用が2件ありました。年間多くて4～5件と言われている拠点对応において、安中市は2件という実績であり、何とか対応ができた事に安堵しています。その2名ともに光の里を利用している方であった事が問題なく対応できた最大の要因です。関係者であるからこそ、迅速に対応でき、各事業所の協力体制も整い、イノセント利用者にも安心して頂けたのだと感じています。しかし、この2名の方は登録と体験をせずに緊急対応をおこなった経緯となります。本来であれば、登録をして体験後に本人の状況をよく理解した方のみを緊急対応時に受け入れていくという流れです。安中市内の他法人の利用者であれば受け入れが不可能だったかもしれない案件でもあります。法人利用者にとって緊急対応の形を整えられた事は大変意義のある事ですが、安中市という規模で考えるとその仕組みが出来ていない状況に変わりありません。現在、登録者はこの2名以外に誰もいません。今この瞬間にも、登録していない方が緊急対応を必要とする状況に陥るかもしれません。この課題をクリアしていく仕組みを、安中市と基幹相談支援センター、安中市の各事業所と連携を取り、創り上げていかねばなりません。安中市地域生活支援拠点の難しさを感じているところです。

「グループホーム イノセント併設型短期入所」

重点課題1 週末の短期入所の確立とグループホーム利用者の安定

週末の短期入所は利用者が2名おり、日中事業所が休日である土曜日の過ごし方も安定している状況です。イノセントで午前中はのんびりと過ごし、午後はサポートひかりの移動支援を利用してホームの利用者と共にグループ支援でお出かけ後にご自宅に帰られています。ホームの利用者も短期入所利用者を受け入れて仲良く過ごされています。現在6名の方が利用していますが、今後はより多くの方の受け入れができるように取り組んでいきたいと思えます。

重点課題2 地域生活支援拠点としての緊急短期入所の利用

2件の緊急短期入所の利用がありました。そのうちの一人の方は親御さんが緊急搬送され、結果的に長期入院が必要な状況となってしまう、ご家庭で利用者が過ごす事が困難になってしまった事例です。オクターヴを事前に利用されていた方であった為、慣れているオクターヴでまずは数日間対応し、ご家族との相談の中で長期対応となる事を想定してイノセントの短期入所での受け入れを整えました。法人内の利用者であった為、相談支援事業所フレンドシップを中心に各事業所と連携を取り、すぐ受け入れ態勢を構築できた事例となりました。基本的にこのような状況が地域生活支援拠点での緊急短期入所が必要な事例だと改めて感じております。各事業所や関係機関との連携の重要性と対象利用者を少しでも理解している事が受け入れの基本となる事を経験できました。

重点課題3 コロナ禍での併設短期入所の役割

家庭の事情等で長期間受け入れが必要な方への短期入所での対応を検討

コロナ禍での短期入所利用は判断が難しい部分があります。日中系事業を利用している方であれば体調等の様子がわかるので受け入れが可能となりますが、法人外での利用者であれば判断が難しい事が予想されるからです。群馬県の警戒度に合わせて法人外の方の利用を判断する基準を決めましたが、警戒度が下がる事がほぼなく一年を終えてしまった状況でもありました。今後、コロナ禍での法人外利用者の体験や緊急短期入所利用前に抗原検査キットを使用する仕組みも検討しているところです。

令和3年度 「ゆうゆうホーム」・「ゆうゆうホーム第二」

「カノンの家」事業報告

〔 施 設 運 営 の 現 状 〕

【1 施設の運営方針】

共同生活援助ゆうゆうホームは、心身に障害を負う人たちが地域の中で人として尊重され、家庭から離れて、安心して暮らせるようその生活をささえるよう努めた。

- (1) 「ゆうゆうホーム」は、障害者が地域社会の中で、人として尊重され、安心して平和に暮らすことが出来るように努める。
- (2) ホームの入居者の生活の質が向上するように適切な支援を行い、また、より自立的な生活への支援に努める。
- (3) 地域社会の人たちに理解を求め、地域の人たちと連帯して、入居者がその人らしく生活することを援助する。

【2 利用者の現況】(令和4年3月31日現在)

- (1) 定員 17名(ゆうゆうホーム6名・ゆうゆうホーム第二6名・カノンの家5名)
- (2) 利用者 16名(ゆうゆうホーム5名・ゆうゆうホーム第二6名・カノンの家5名)
- (3) 地域別利用者状況
安中市 15名、 富岡市 1名

(4) 年齢別 (前年比)

才	20～	30～	40～	50～	60～	合計	平均
性別	29	39	49	59	69	人	才
男	1(+1)	2(-1)	2(0)	0(0)	1(0)	6(0)	40.1(-2)
女	0	2	3(0)	2(-1)	3(+1)	10(0)	51.5(+0.5)
合計	1(+1)	4	5(0)	2(-1)	4(+1)	16	47.2(-1.5)

(5) 障害の状況

障害	知的障害	身体障害	てんかん	心機能障害	ダウン症	場面緘黙	自閉	精神障害	実人員
男	6	0	1	2	2	0	3	0	6
女	9	3	1	1	1	2	0	3	10
計	15	3	2	3	3	2	3	3	16

障害区分

区分	区分3	区分4	区分5	区分6	平均障害程度区分
男	1	3	1	1	4.3 (-0.3)
女	2	0	6	1	4.2 (-0.5)
合計	3	3	7	2	4.2 (-0.4)

【3 職員の配置と管理状況】

(1) 職員の配置状況

職種	管理者	サービス管理責任者	事務員	世話人	支援員	夜勤専門職員
常勤	1*	1*	1	1*		
非常勤				3	12	7

常勤換算 世話人 3.2人以上 支援員3.7人以上配置

*は兼務

事務員はフィロスあけぼのと兼務

(2) 災害事故防止対策

- ・利用者の安全を確保するために、建物の点検整備を行い、安全指導避難訓練を実施した。
- ・防火防災設備を整え、定期的に点検を行った。

【4 職員の支援内容】

- 1 朝食・夕食・休日の昼食の提供
- 2 金銭管理 小遣い等の管理
- 3 健康管理 健康チェック、助言、インフルエンザ等予防対策
- 4 応談と助言
- 5 通院、買い物等
- 6 夜間宿泊支援
- 7 日中支援 病気等で日中活動に通えない状況の時職員を配置し必要な支援を行う。
- 8 入浴支援
- 9 関連事業所への連絡・調整（日中活動事業所・居宅事業所等）
- 10 隣保班対応

【5 まとめ】

令和3年度もコロナの1年であった。幸いホームは居室が一人部屋なので、密になることを避けやすい環境もあり感染者は出なかった。支援者もそれぞれに感染対策に努め、発熱などの場合は抗原検査を行い症状がある間は休むよう心掛けた。

昨年度ゆうゆうホームの蝙蝠対策を行ったが秋に再び蝙蝠が出入りしていることがわかり追加工事を行う。その後冬になり活動していないこともあるが出入りは見られていない。

昨年ゆうゆうホーム第二に新しく入った方が家庭の事情で退居された。そのため新しい方が体験入居をされたが、ご両親が希望されなかったため契約にはならなかった。その後体験された方が、ホームでの生活がとても気に入ってくれ、ご両親も本人が望むのであればと契約された。半年が過ぎたがとても落ち着いて暮らしている。もう一部屋空いているが、女子で2階部屋が可能な方での希望者がいないため空室になっている。

コロナの関係で外出や外食・季節の行事など集まってすることはできないが、それぞれのホームで蜜を避けながら、季節を楽しむことや食事や趣味など、一人一人に合ったものを提供しながら、過ごしてきた。利用者の方が健康で変わらず過ごせていることは幸せなことだと考える。親元から離れて暮らすことにも慣れて、一人一人が楽しく自分の生活を送れるよう支援者は支えていきたい。

令和3年度 ゆうゆうホーム職員研修報告

職員研修

受講年月日	主催者	開催地	研修内容	参加職種氏名	参加人員
2021年 7月14日	柳生由幸税理 士事務所	イノセント	社会福祉法人の会計	管理者 内堀幸恵	1名
8月6日	県知的障害者 福祉協会	Z o o m	夏季特別研修会「共に支えあ う共生社会の実現」 「ICT活用」「人権擁護」	管理者 内堀幸恵	1名
10月6～7日	日本知的障害 者福祉協会	Z o o m	全国知的障害者施設長等会 議「利用者を中心に考える就 労系事業の機能と果たすべ き役割」	管理者 内堀幸恵	1名
2022年 1月20日	県知的障害者 福祉協会	Z o o m	サービス管理責任者等更新 研修	サービス管理責任者 内堀幸恵	1名

そのほか職員会議時にタブレットを利用して虐待防止の研修ビデオを
視聴した。(会議出席職員)

令和3年度 単独型短期入所 オクターヴ事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

【施設運営の現状】

- 障がいを持った方ひとりひとりの人間性を尊重し、常に敬意を持って接するとともに、利用者の心身の状況や個性をよく理解し、援助を行うよう努めます。
利用者の中には、環境の変化による不安や緊張感を抱く方も多く、心身に変動をきたすこともあるため、安心感を持っていただけるような対応とともに、心身の状態の観察には特に注意を払い、適切な援助に努めます。
また、利用者のご家族の身体的及び精神的負担の軽減を図ります。

2 利用者と職員の現況(令和4年3月31日現在)

(1) 定員 4名 (年間平均利用数 3.4人)

(2) 登録人数 39名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用者数	69	62	77	73	72	62	72	67	67	67	63	68	819
開所日数	21	18	22	20	19	20	21	20	19	19	18	22	239
1日の平均利用人数	3.3	3.4	3.5	3.7	3.8	3.1	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.1	3.4

(3) 地域別利用者数

市町村名	安中市	高崎市	富岡市	渋川市	その他	合計
人数	33	2	3	1	0	39

(4) 年齢別利用者数

年齢別	20才代	30才代	40才台	50才台	60才代	合計
男	16	9	4	0	0	29
女	2	5	3	0	0	10

(5) 障害支援区分

区分	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男	0	0	2	13	4	10	29
女	0	0	3	4	3	0	10

3 職員配置と管理状況

(1) 職員配置

職種	常勤		非常勤	
	専従	兼務	専従	兼務
管理者		1		
生活支援員(宿直)		5	3	
生活支援員			1	1
事務職員		1		

(2) 管理状況

職員の福利厚生に留意し、休暇、年2回の健康診断の実施で心身ともに健康で明るい職場づくりを目指しています。

4 日 課 表

時間	内 容
15:30～	オクターヴ到着・おやつ
16:30～	入浴・休憩
18:00～	食 事
19:30～	自由時間
21:00～	就 寝
翌朝6:45	起 床
7:30～	朝 食
8:30～	片付け・掃除・身支度準備
9:00～	日中活動場所・自宅へ移動
9:30	業務終了

5 食事の提供 宅配サービス業者の調理したものを提供しました

6 費用について 食事提供に係る費用（1食300円）高熱水費（1日100円）

7 施設管理と整備

建物内の整備と修理に努めました。

8 毎日の清掃業務は、フィロスあけぼのに委託しました。

9 事故・災害防止対策

事故報告・ヒヤリハット報告書を作成し、事故防止に努めました。

利用者と職員の安全確保のため、施設環境の点検整備と安全指導・避難訓練を9月29日と3月31日の2回行いました

【ま と め】

令和3年度は、登録人数39名、内訳は法人内利用者32名、法人外利用者9名です。

開所日数は、昨年度とほぼ変わりませんが、コロナ禍で昨年同様、利用を控えている方も多くおります。しかし、利用を再開された方もあり、以前より利用日数を増やしている方もおられます。

利用人数は、昨年度より増え、平均利用人数も3.4人と（昨年度比+0.2）となっております。

また、イノセントの短期入所も開設されたことから、併用されている方もいます。今後も連携を取りながら、運営を行っていきたいと思います。

オクターヴは開所10年が経過し、利用者の方も家庭を離れたオクターヴでの過ごし方になれ、落ち着いて宿泊されています。

新型コロナウイルス感染症対策は昨年度と同様に行い、検温やアルコールでの消毒もこまめに行い感染防止を徹底しました。また、利用者家族や事業所には、体調管理の徹底をお願いしました。

今年度も、3人の宿直専門職員で担っていただき、足りないところを日中活動の職員の協力をお願いし慣れた職員で変わらない支援を行うことができました。利用者も定着していることから落ち着いた支援体制が維持できました。今後、家庭や事業所との連携を取りながら、情報共有を行い、運営していきます。

令和3年度 居宅介護・行動援護・移動支援事業
「サポートひかり」事業報告

[事業所運営の現状]

1、 運営目的

(1)居宅介護事業

居宅において、入浴・排泄・食事等の介護、調理、洗濯及び掃除等の家事や生活に関する相談及び助言など生活全般にわたる援助を提供するサービスをおこなう。

このほか通院介助、公的手続きや相談のために官公庁を訪れる場合の支援。

(2)行動援護事業

知的障害又は精神障害により、行動上著しい困難があり、常時介護が必要で、行動する際に生ずる危険を回避するための援助、外出における移動中の介護、排泄、食事の介助、その他、行動する際に必要な援助を行うサービスをおこなう。

(3)重度訪問介護事業

(4)移動支援事業

余暇時間に外出する際の支援。

(5)福祉有償運送サービス

資格を持ったヘルパーが運転する車で目的地までの送迎。

2 利用者の現況（令和4年3月31日現在）

(1) 令和3年度 利用者数 115名
登録者数 152名

(2) 地域別利用者数

市町村名	安中市	高崎市	富岡市	渋川市	下仁田町	東京都三鷹市	合計
実績あり	101	5	5	1	1	2	115名
実績なし	32	1	4	0	0	0	37名

(3) 年齢別 (令和3年度利用されたのみ)

歳 性別	~18	19~20	21~29	30~39	40~49	50~59	60~65	65~	合 計	平 均
男	5	1	22	15	12	5	3	2	65	32.9
女	3	2	10	7	8	12	4	4	50	39.0
合 計	8	3	32	22	20	17	7	6	115	35.4

3 職員配置と管理計画状況 (令和4年3月31日)

(1) 職員の配置状況

- ① 管理者 (サービス提供責任者を兼務) 1名
- ② サービス提供責任者 1名
- ③ 常勤職員 2名
- ④ 登録ヘルパー (非常勤) 11名
- ⑤ 兼務ヘルパー 1名
- ⑥ 事務員 (紙ひこーきと兼務) 1名

(2) 職員の組織・役割分担、緊急連絡網、及び職員の研修状況を整え、事業所機能の充実と職員の資質の向上を図る。

(3) 職員の福利厚生に留意し、明るい職場作りを目指す。

職員が、その職務を十分に達成するために、心身共に健康な状態を維持する。

- ① 定期健康診断 快適な職場環境の維持に努めること
- ② 職員の休暇、休憩、レクリエーションなど心身の健康に留意すること
- ③ 施設内外の清掃、換気、採光、保温、防湿など衛生管理に注意すること

(4) 地域福祉活動

- ① 「社会福祉法人 光の里」の後援団体「安中あけぼの会」と共催して地域福祉活動に参加する。

(5) 事業所の管理と整備改善

常に整備、改善すべき点に留意する。

4 研修報告

	研修内容	期日	受講者
1	夏季特別研修会（オンライン）	令和3年8月6日	管理者・主任
2	福祉有償運送講習 講義 福祉有償運送講習 実技	令和3年9月30日 令和3年10月4日	主任・ヘルパー 主任・ヘルパー
3	全国知的障害者 関係施設長等会議（オンライン）	令和3年10月6日 令和3年10月7日	管理者
4	虐待防止研修	令和4年1月29日	管理者
5	発達障害の理解と生活の工夫	令和4年2月9日	管理者
6	強度行動障害支援者養成研修 （基礎）	令和4年3月28日 令和4年3月29日	ヘルパー
	強度行動障害支援者養成研修 （実践）	令和4年3月28日 令和4年3月29日	ヘルパー

5 [まとめ]

令和3年度も前年度に引き続きコロナウイルスの流行で色々制限された1年でした。

移動支援や行動援護では、警戒度が上がり、蔓延防止措置が発表されると、1日のお出かけ支援が半日になり、外食、映画、商業施設でのお買い物、プール活動、カラオケ等仲間がいつも楽しみにしてる活動を自粛せざるを得ない状況となりました。

通院等介助なども、コロナ感染拡大防止の観点から毎月通院をしていた方が、3か月おきの通院になったり、リモート受診という新しい形になったりと、まだまだコロナの影響は大きいです。

3年度は従業員の退職もあり、家事援助の支援をお断りせざるを得ない状況が続き、とても心苦しい日々が続いておりましたが、新しい職員が1名入職し、日々頑張ってくれています。行動援護に入れるまでには1年かかる状況ではありますが、職員全体でカバーしあい人材育成に取り組んだ年となりました。

また、法人全体で虐待防止委員会を立ち上げ、主任支援員が虐待防止委員に選出されました。虐待に関する研修を管理者から徐々に参加し、日々の言動や行動を思い返すなど学びの年となりました。また、月1度のヘルパー会議でも、虐待防止の話し合いをするなど、意識改革を進めていけました。まだまだ、勉強不足のところもあるため、令和4年度でも職員全体で研修を受けるなど、力を入れていきたいと思えます。

令和3年度 放課後等デイサービス 紙ひこーき事業報告

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

【施設運営の現状】

- 1 障がい児が日常生活における基本的動作を習得し、集団生活に適応することが出来るよう個々への障がい特性に応じた支援を行います。
 子ども同士でコミュニケーションがとれるよう手助けを行い、その関係を通して心の安定を図り、社会ルールやマナーを習得できるよう支援します。
 家族の負担軽減も目的とします。

- 2 利用者と職員の現況（令和4年2月28日現在）

(1) 定 員 10名 (年間平均利用数 10.4人)

(2) 登録人数 23名

(3) 地域別利用者

原市	高別当	磯部	岩井	野殿	築瀬	秋間	後閑	郷原	八城	新堀	国衙	高崎市	富岡	合計
7	2	6	0	0	1	0	3	1	1	0	1	0	1	23

(4) 登録児童の内訳

学年	小学校						中学校			高等学校			合計
	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	1年生	2年生	3年生	1年生	2年生	3年生	
人数	2	0	3	1	1	4	1	1	2	3	3	2	23
通常学級						1							1
支援学級			3	1	1	1	1	1	1				9
支援学校	2					2	1		1	3	3	2	14

(5) 利用形態

日数	月20日以上	月16日以上	月12日以上	月8日以上	月4日以上	月4日未満	合計
人数	2	3	7	6	4	1	23

(6) 障害の状況（重複障害を含む）

	知的障害	身体障害	精神障害	広汎性発達障害	ダウン症	てんかん	療育手帳なし
男	12	2	0	12	1	2	5
女	5	3	1	2	1	1	1
合計	17	5	1	14	2	3	6

3 職員配置と管理状況

(1) 職員配置

職種	管理者	児童発達支援 管理責任者	保育士	児童指導員	指導員	障害福祉サービス 経験者	事務員
常勤	1	1	1	1		1	1
非常勤			1	2	1		

(2) 管理状況

- 1 職員の組織・役割分担、緊急連絡先、及び職員の研修状況を整え、施設機能の充実と職員の資質の向上を図ります。
- 2 職員の福利厚生に留意し、職員休暇、定期健診を行いながら心身ともに健康で明るい職場作りを目指します。

4 地域福祉活動

「社会福祉法人 光の里」の後援団体「安中あけぼの会」の地域福祉活動

「あけぼの会報38号」の発行に編集委員としてに参加。

「光の里まつり」を共催（地域交流事業はコロナ禍で実施されなかった）

5 施設管理と整備

建物内の整備と修理・衛生管理に努めました。

サポートセンターのベランダの木製の手すりの老朽化に伴い、安中市福祉課の協力で全面修理を行った。また、園庭遊具の点検と塗装を行った。

6 事故・災害防止対策

- (1) 事故報告・ヒヤリハット報告書を作成し、職員会議で申し合わせを行い、事後防止に努めました。
- (2) 利用者や職員の安全を確保するために、施設環境の点検整備と安全指導、避難訓練、通報訓練、消火訓練を行いました。

(3) 避難訓練

- 1 9月29日（水）総合訓練を行った。コロナ禍のため、消防署の立ち合いはなかった。今回は、初期消火に失敗→玄関から駐車場までの避難誘導をおこなった。
（児童11名、職員6名の参加）全員がスムーズな動きで避難できた。
通報訓練を行った。
- 2 3月31日（水）（児童12名、職員6名参加）
職員にはあらかじめ避難訓練の内容を説明し消火器の設置場所・使用方法を説明・確認を行った。非常ベルの合図で、支援員の声掛けで駐車場へと素早く非難することができた。

【支 援 状 況】

1 日課

10:00～	始業・前日の記録・メンバー表作成・会議・ケース記録作成
12:00～	昼休み
13:00～	活動準備
13:45～	高崎特別支援学校小学部迎え 原市・磯部・西横野小学校・安中第2中学校 迎え 高崎特別支援学校中学生・高校生迎え 二葉特別支援学校迎え
16:10～	始まりの会
16:20～	おやつ
16:40～	さんぽ・園庭遊び・自由遊び
17:00～	創作活動・自立課題・体操・歌・読み聞かせなど
17:45～	終わりの会・自宅まで送り
18:45	終業

2 長時間活動

8:30～	始業・活動準備・送迎開始
10:00～	活動開始・さんぽ・園庭遊び
12:00～	昼食・休憩
13:00～	歯みがき・プール・さんぽ・体験学習・自立課題等
15:00～	おやつ・歌・読み聞かせなど
16:00～	終わりの会・自宅送り開始
17:15	終業

3 行 事

今年度も長時間活動は、体験学習を目的として活動を行いましたが、コロナ禍で外食体験・バス旅行は中止しました。

毎月の壁画制作では、季節感を取り入れた作品を制作しました。

また、お楽しみ会として、8月には「ハワイアンデイ」11月には「ハロウィンパーティー」と称して、デイルームを飾りつけ、子どもたちも職員も仮装して楽しみました。

土曜開所は、コロナの感染状況を見ながら、公園や散策に出かけました。

クリスマス会では、恒例のビンゴゲームや、ケーキのデコレーションをみんなで行い、おやつでいただきました。

4 家庭との連携

個別支援計画の説明や中間評価の年2回の面談、電話、連絡帳、送迎時を利用して保護者に直接お伝えしています。

また、必要に応じて個別面談を行い、電話相談も行っています。

活動の様子は、毎月”紙ひこーき通信”でお知らせしています。その他、必要時応じて、おたよりでお知らせしています。

また、今年もガイドラインによる事業所評価（保護者・職員対象）を行い、結果は、ホームページで公開しています。

(職員研修体制)

研修実績報告

職員の資質の向上を図るため研修（ZOOM・オンデマンド配信を含む）に参加しました。

受講年月日	主催者	研修内容	参加職種 参加人数
7月11日	群馬県手をつなぐ 育成会	第55回手をつなぐ育成会関東甲信越大会 群馬大会 コロナに負けない！つなげていこう育成会活動 ～今だから考える 育成会の大切さ～	管理者
7月14日	柳生由幸税理士事務所	社会福祉法人の会計 法人の計算書類を理解しましょう 税理士 柳生由幸氏	管理者 事務職員
8月6日	群馬県知的障害者 福祉協会	第53回 夏季特別研修会 『共に支えあう共生社会の実現』 ～危機管理の中から見えてきた今日的な課題～	保育士
9月4日	日本ダウン症協会 群馬支部	第1回セミナー「ダウン症のある子供の育ちと育て方」 ～特性を知ることの必要性～ 日本ダウン症協会 相談員 赤石嘉苗氏	管理者 保育士 児童指導員
9月24日	群馬県障害児放課後 対策連絡会	『行動障害（生きづらい子どもたちへの支援）について』 東京福祉大学大学院社会福祉学研究科教授 立松英子氏	管理者 保育士 児童指導員
10月6日	日本知的障害者福祉協 会	令和3年度全国知的関係施設長等会議 障害のある方の望む暮らしの実現に向けて ～障害者総合支援法後3年の見直しを踏まえて～	管理者
12月5日	日本ダウン症協会 群馬支部	第2回セミナー 「できた」を通して学ぶ 子どもたちの主体的な遊びや活動をめざして 群馬大学共同教育学部教授 霜田浩信氏	管理者 児童指導員
12月7日	群馬県障害児放課後 対策連絡会	2021年度 児童発達支援管理責任者研修 『相談員と児発官の連携と保護者対応について』 社会福祉法人希望の家 米田真一氏	保育士 児童指導員
12月23日	群馬県健康福祉部 障害政策課	群馬県サービス管理責任者等更新研修 (児童発達支援管理責任者)	児発官
1月25日	社会福祉法人 全国社会福祉協議会	令和3年度 障害者虐待防止法マネージャー研修	管理者
2月9日	群馬県発達支援センター	「発達障害の理解と生活の工夫」 —特使の重複や強弱から考える— 信州大学医学部子どもの心の発達医学教室 本田秀夫先生	管理者 保育士 児童指導員

【ま と め】

令和3年度は、3年に一度の報酬改正の年に当たり、開所以来、基本の報酬単価は下がり続けています。今回も前年度に比べ1割近く下がり、厳しいスタートとなりました。

更に、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、基礎疾患のある児童は、利用を控える傾向にあり、後期になると、学校でのクラス感染や家庭内感染、また他の放デイでの感染が心配され、利用を控える児童が多くなりました。

また、1ヶ月の欠席と休みの平均が28.7人と大変多くなっています。このことは、現在も続いており、今後も続くことと思われま

今年度は、新1年生の受け入れは2人で特別支援学校在籍です。年度途中で2人の児童の受け入れをしました。また、2月末日には高校3年生が2名卒業し、高崎の生活介護事業所に通所が決まりました。

活動については、昨年同様、長時間活動では体験学習や外食体験を外で行うことができなかつたので、室内で、「ハワイアンデイ」や「ハロウィンパーティー」と称して、仮装したり、室内でのレクリエーションに力を入れました。

また、建物の修繕では、紙ひこーきのテラスのウッドデッキが経年劣化で、危険を伴う為、安中市福祉課と建築課の協力で改修工事を行いました。

令和3年度 研修実績報告書

職員の資質の向上を図るため研修（ZOOM・オンデマンド配信を含む）に参加しました。

受講年月日	主催者	研修内容	参加者
7月11日	群馬県手をつなぐ育成会	第55回手をつなぐ育成会関東甲信越大会 群馬大会 コロナに負けない！つなげていこう育成会活動 ～今だから考える 育成会の大切さ～	管理者
7月14日	柳生由幸税理士事務所	社会福祉法人の会計 法人の計算書類を理解しましょう 税理士 柳生由幸氏	管理者 事務職員
8月6日	群馬県知的障害者福祉協会	第53回 夏季特別研修会 『共に支えあう共生社会の実現』 ～危機管理の中から見えてきた今日的な課題～	保育士
9月4日	日本ダウン症協会 群馬支部	第1回セミナー「ダウン症のある子供の育ちと育て方」 ～特性を知ることの必要性～ 日本ダウン症協会 相談員 赤石嘉苗氏	管理者 保育士 児童指導員
9月24日	群馬県障害児放課後対策連絡会	『行動障害（生きづらい子どもたちへの支援）について』 東京福祉大学大学院社会福祉学研究科教授 立松英子氏	管理者 保育士 児童指導員
10月6日	日本知的障害者福祉協会	令和3年度全国知的関係施設長等会議 障害のある方の望む暮らしの実現に向けて ～障害者総合支援法後3年の見直しを踏まえて～	管理者
12月5日	日本ダウン症協会 群馬支部	第2回セミナー 「できた」を通して学ぶ 子どもたちの主体的な遊びや活動をめざして 群馬大学共同教育学部教授 霜田浩信氏	管理者 児童指導員
12月7日	群馬県障害児放課後対策連絡会	2021年度 児童発達支援管理責任者研修 『相談員と児発官の連携と保護者対応について』 社会福祉法人希望の家 米田真一氏	保育士 児童指導員
12月23日	群馬県健康福祉部 障害政策課	群馬県サービス管理責任者等更新研修 (児童発達支援管理責任者)	児発官
1月25日	社会福祉法人 全国社会福祉協議会	令和3年度 障害者虐待防止法マネージャー研修	管理者
2月9日	群馬県発達支援センター	「発達障害の理解と生活の工夫」 —特使の重複や強弱から考える— 信州大学医学部子どもの心の発達医学教室 本田秀夫先生	管理者 保育士 児童指導員

障害福祉サービス事業者等説明会・障害児通所支援に係る説明会（zoom）に参加しました

令和3年度 相談支援事業「フレンドシップ」事業報告

1・運営方針

相談事業を通して、障害のある方が自らの思いと力を最大限に発揮し、その方らしい自立を図ることを支援する。

障害の有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し、安心して暮らすことができる地域社会の実現に貢献する。

地域社会や関係機関と円滑な連携を図り、相談支援のネットワークを作る。

2・利用者と職員の状況

相談実績（令和2年4月～令和3年3月）

（1）相談方法の状況（計画相談のみ）

相談方法	相談件数
事業所来所	26
自宅訪問	67
担当者会議	151
支援会議	18

（2）障害別支援状況

知的障害	115
身体障害	12
精神障害	1
発達障害	26
その他	5

（3）支援の内訳

区分	述べ件数
福祉サービスの利用等に関する支援	152
就労に関する支援	3
障害や病状の理解に関する支援	0
不安の解消、情緒安定に関する支援	1
権利擁護に関する支援	0
社会参加・余暇活動に関する支援	79
その他	43

(4) 職員配置

職種	施設長	相談支援専門員	事務員
常勤	1 (兼務)	3	1 (兼務)
非常勤			
常勤換算	0. 3	2. 5	0. 2

3・計画相談支援

- (1) サービス利用支援 (計画作成) 154 件
(2) 継続サービス利用支援 (モニタリング) 377 件

【まとめ】

開設して8年が経過し、登録利用者が154名となりました。毎年新規の利用者も増えていますが、特に児童で発達障害の方が相談件数としては多い傾向です。今後も増えるのではないかと考えています。市の保育園ではコンサルテーション事業(県の事業の一環として、園からの依頼により心理士が園に訪問し、気になるお子さんの担当の保育士にアドバイスが行われる事業。親御さんからの希望も園を通して対応してもらえる)を利用し、発達障害児に向けた対応が行われているとことがあります。そこから相談支援につながるケースがありました。

相談としては利用者本人を中心に関わる事業所、家族、行政等との連携をとり地域で生活するために必要な支援を組み立て、提案してきました。引き続き本人やご家族の要望等を聞き取りながら、業務を遂行したいと思います。困難事例については基幹相談支援事業所とは連携が取れず、行政や様々な事業所と協力し、サービスが受けられるようになったケースがありました。妥協点もありますが、今後の展開に期待したいと思います。またコロナの感染対策として対面でできない時は、電話やZ o o mでの会議等で対応しました。

たくさんの利用者や保護者と関わりながら、相談支援事業を展開しています

令和3年度 ふれあいの家 事業報告

【施設運営方針】

1、 在宅重度心身障害児者デイサービス「ふれあいの家」は、心身に重い障害を負う人たちが、地域社会の中で人として尊重され安心して平和に生活出来るよう努める

(1) 施設利用者が、安全に配慮された環境の中で生活の質の向上を高め、生きがいを得ることが出来るよう適切な支援に努める

(2) 地域社会の人たちと連帯して、地域の中でその人らしく生活することを援助する

2、 利用者と職員の現況(令和4年3月31日現在)

(1) 定員, 10名

(2) 登録利用者数, 14名

(3) 地域別利用者数

地区別	安中大竹	東横野	磯部	松井田	野殿 岩野谷	原市	合計
人数	3	1	3	2	2	3	14

(4) 年齢別

令和4年3月31日 現在

性別年齢	～20	21～ 30	31～ 40	41～ 50	51～ 60	61～ 65	66～	合計
男	1	6	1	0	1	2	0	11
女	1	0	1	1	0	0	0	3
計	2	6	2	1	1	2	0	14

(5) 障害の状況(延べ数)

障害 性別	知的 障害	身体 障害	てん かん	言語 障害	自閉 傾向	行動 障害	脳性 マヒ	高次 脳	重複 人数	実人 数
男	9	6	3	7	4	1	0	0	11	11
女	2	2	1	1	0	0	0	1	3	3
合計	11	8	4	8	4	1	0	1	14	14

(6) 障害支援区分

区分	区分3	区分4	区分5	区分6	合計人数
男	1	2	3	5	11
女	0	0	1	2	3
合計 人数	1	2	4	7	14

(7) 個人別年間利用日数

NO	年間利用 日数	備 考
1	236	週5日通所(月～金)
2	232	週5日通所(月～金)
3	228	週5日通所(月～金)
4	190	週4日通所(月、水～金)他、(きぬの郷)
5	234	週5日通所(月～金)
6	45	週1日通所(火)他(ハーモニーケアセンター)
7	43	週1日通所(月)他(エルピスあけぼの、コスモス)
8	49	週1日通所(水)他(コスモス)
9	43	週1日通所(金)他(ワンセルフ)
10	151	週4日通所(月、火、木、金)(水曜日エルピスあけぼの)
11	0	利用中止中
12	45	週1日通所(水)他(きぬの郷、なかま、ハッピーライフ)
13	35	週1日通所(火)他(きぬの郷、なかま、ひなたぼっこ)
14	102	週2日通所(月・木)

3、 職員配置と管理状況

(1) 職員の配置状況（令和4年3月31日）

職種	所長	支援員	合計
常勤	1	3	4
非常勤		2	2

(2) 管理状況

- ① 職員の配置、役割分担、緊急連絡網を整え施設機能の充実を図り職員の資質向上に努める
- ② 職員の福利厚生を整え、明るい職場作りを目指す
- ③ 健康診断を行い健康の維持を図り、心身ともに良好な状態でいられるよう職場環境を整える
- ④ 休暇、休憩、レクリエーションなど職員がリフレッシュ出来るような職場環境を作る
- ⑤ 施設内外の清掃、空調、換気等衛生管理に留意する
- ⑥ インフルエンザ、ノロウイルスなど集団感染予防のため感染症対策を行う（ノロウイルス対策グッズを準備）
- ⑦ 新型コロナウイルスによる集団感染を防ぐために感染対策を講じた。
 - ・職員は出勤前、利用者は通所前（送迎車に乗る時）の検温の徹底
 - ・玄関での手指消毒、手洗い
 - ・職員のマスク着用
 - ・施設内での接触部の消毒、換気、卓上パーテーションの設置、昼食時の座席の間隔
 - ・来客者の検温、来客名簿の記入
- ⑧ 昼食
 - ・家庭からの弁当又は宅配弁当
 - ・調理実習を月2回行う
 - ・味噌汁の提供
- ⑨ 送迎
 - ・送迎車を運行し通所の便宜を図る
- ⑩ 地域福祉活動
 - ・「社会福祉法人 光の里」の後援団体「安中あけぼの会」と共催し地域福祉活動に参加を行う
 - ・障害者福祉への理解と協力を求め、ボランティアの受け入れをする（令和3年度はコロナ蔓延防止策として受け入れはなし）
 - ・「安中あけぼの会」の広報誌「あけぼの会報」の発行に参加する
 - ・ふれあいの家通信「ひだまり」の発行を年1回行う

⑪ 災害事故防止対策

- ・利用者の安全確保をするために、施設環境の点検整備と安全指導をおこなう
- ・防火防災組織、消火自衛組織を整備し、点検を行う
- ・避難訓練を実施する（年2回）
- ・AEDの点検と管理

(3) 職員の研修実績

令和3年度

月 日	研修名	主催団体名	テーマ	参加者
令和3年 6月16日	風水災害時のリスク マネジメント	(株)ジェイアイシー	風水害に備えるBCP（事業 継続）を考える	所長
令和3年 7月11日	手をつなぐ育成会関東 甲信越大会群馬大会	群馬県手をつなぐ育成 会	コロナに負けない つなが ていこう育成会活動	所長
令和3年 8月6日	夏季特研	群馬県知的障害者福祉 協会	共に支え合う共生社会の実 現	支援員
令和3年 10月6日	全国知的障害関係施 設長等会議	日本知的障害者福祉協 会	障害のある方の望む暮らし の実現に向けて	所長
令和3年 10月7日	全国知的障害関係施 設長等会議	日本知的障害者福祉協 会	分科会 重い障害のある方 の日中活動と社会生活支援	所長
令和3年 10月12 日	発達障害支援者養成 研修会	群馬県知的障害者福祉 協会	発達障害について理解を深 め日々の支援の一助とする	支援員
令和3年 10月19 日	相談支援と生活支 援・事例検討会	群馬県知的障害者福祉 協会	事例検討	支援員
令和3年 11月25 日	障害者虐待防止法に ついて	群馬県障害者権利擁護 センター	障害福祉サービス事業所の 責務	所長
令和3年 12月1日	障害者虐待防止法に ついて	群馬県障害者権利擁護 センター	法の概要・虐待防止法の観 点を理解する	支援員
令和3年 12月6日	障害者虐待防止法に ついて	群馬県障害者権利擁護 センター	法の概要・虐待防止法の観 点を理解する	支援員
令和4年 1月25日	人権倫理委員会研修 会	群馬県知的障害者福祉 協会	利用者と職員の笑顔のため に身体拘束0を目指し虐待 を防止する	支援員
令和4年 1月26日	障害者虐待防止マネ ージャー研修会	全国社会福祉協議会	虐待を生まない支援・体制 のあり方等について理解を 深める	所長
令和4年 2月2日	部会合同支援研修会	群馬県知的障害者福祉 協会	発達障害者の特性と支援に ついて	支援員

【支援の状況】

1、基本的な支援・介護の内容

「ふれあいの家」は15歳以上の重度心身障害者に対し、その障害程度に応じた支援・介護を行いあわせて家族の負担を軽減する

(1) 日常生活の支援と介護

入浴支援・食事介助支援、歯磨き支援・排泄支援・着脱衣の支援・安全の支援
個別支援計画に基づき支援を行う 障害特性に合わせた支援を行う

(2) 医療及び健康管理に関する支援

バイタル測定・服薬管理・衛生、清潔に関する支援を行う

(3) 機能訓練に関する支援

理学療法士によるリハビリや体力の維持増進を図るため、散歩やストレッチを行う

(4) 余暇支援

劇の練習を含む創作活動、音楽療法による歌やピアノを聴く等

(5) 社会活動支援

施設内外の行事・家族旅行・季節の行事・リクレーションを行う

(計画はしたがコロナ蔓延防止策として実施を見送った物もあった)

(6) 相談援助支援

本人・家族への相談支援を行う

(7) 家族との連携

送迎時家族に施設での様子を話す、又連絡帳やおたよりによるお知らせ・電話などで保護者と連絡をとる

2、「ふれあいの家」一日のプログラム

時間	内容
8:30	職員出勤、ミーティング
8:35	送迎車出発
9:05~10:00	送迎車到着、持ち物・衣類の整理、排泄介助
10:00~10:30	バイタルチェック、朝礼、体操、水分補給、
10:20~11:35	入浴支援、個別支援、創作活動、散歩、検温
11:35~13:00	排泄介助、昼食支援、歯磨き支援、休憩、TV、DVD 視聴
13:30~14:50	個別支援、散歩、創作活動、(入浴支援)、検温
14:50~15:45	排泄介助、水分補給、絵本、紙芝居、歌、終礼
15:45~17:15	送迎バス出発、清掃、職員事務処理、ケース記録、職員会議、終業

3、年間行事実施状況

月	行事	月	行事
4	お菓子作り・調理実習・誕生会・保護者会面談・理学療法	10	誕生会・調理実習・ハロウィン祭り・理学療法・おやつ作り・ミニミニ運動会
5	お菓子作り・調理実習・誕生会 音楽療法	11	調理実習・誕生会・音楽療法・おやつ作り
6	調理実習・理学療法・誕生会・お菓子作り	12	誕生会・調理実習・クリスマス会 理学療法・年度末休業
7	誕生会・お菓子作り・調理実習 七夕祭り・音楽療法・避難訓練	1	新年会・初詣・調理実習・お菓子作り 音楽療法・お誕生日会
8	調理実習・納涼祭・お菓子作り・理学療法・施設清掃・夏季休業	2	節分・調理実習・おやつ作り・理学療法
9	福祉パレード・調理実習・音楽療法・除草作業	3	ひな祭り・調理実習・音楽療法・避難訓練

【まとめ】

令和3年度の利用者数は14名、前年度から変わりません。医療的ケアの必要な方はご利用の曜日変更がありました。看護体制が不十分な中、何とかご利用日に不都合が生じないよう配慮をしてきました。そんな中、法人職員に看護師さんを紹介していただくことができ、11月より短い時間ではありますが採用になりました。この事が今後の看護体制に繋がっていければ嬉しいです。

令和3年度も、新型コロナウイルスの蔓延により事業計画の実施に大変苦慮しました。予定されていた行事は中止となりましたが、施設内で楽しめる事を考え初めて『ミニミニ運動会』を施設の庭で実施しました。利用者さんみんなが楽しめるようにと3日間に渡り実施しました。他、事あるごとにクジ引きやゲーム形式にしたり日常が少しでもワクワクできるような変化も取り入れてみたりもしました。又、マスクの着用が難しい仲間が多いので心配をしながらでしたが、近くの公園には行くことができました。毎年恒例のクリスマス会は、食事以外のお楽しみ会の部分で保護者の方々にも声をかけさせていただき数名が参加されました。その他、個別支援の充実を図り散歩をメインに支援をしました。

職員研修は、ほとんどがリモート研修でした。出向いての研修は参加するにも参加しにくいところもあり、限られた職員の参加しか見込めませんがリモート研修になった事で参加しやすくなり令和3年度は全職員が参加出来、とても良かったと思います。

そして令和3年度も、この事態を理解できない仲間たちをどうやって守っていくか、そしていつもと変わりなく日常をどう過ごしていくのか、目に見えない物との戦いを強いられ心配しながら過ごしてきた一年でした。この様な日常の中、仲間たちはいつもと変わりなく過ごすことができ安堵しております。『変わらない』という事がとても大事であると改めて感じた一年でした。